

第9号様式(第14条関係)  
座間市市民協働課  
平成 25.4.30 受付  
第 号

相互提案型協働事業実施報告書

平成 25 年 4 月 30 日

(宛先) 座間市長

団体 住所 座間市入谷 4-2419-2  
フォルスコート座間 3-308

名称 座間生ごみ堆肥化グループ

代表者氏名 笠波 信子 

市 担当 課 資源対策課・農政課

資源対策課長 圓城 厚 

農政課長 山本 輝和 

次のとおり報告します。

1 事業名	生ごみの堆肥化推進事業「生ごみ資源化で循環型社会へ」
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	平成 23 年度選考 (平成 24 年度実施)
4 報告期間	平成 24 年 4 月 1 日 から 平成 25 年 3 月 31 日 まで
5 事業費	392,999円 (内座間市支出分 228,959円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 堆肥化講座の開催</li> <li>2. 実践者へのアフターフォロー講座</li> <li>3. 市が助成をした生ごみ処理機購入者へのアンケート実施によるアフターフォロー</li> <li>4. 市役所、公民館などで生ごみ堆肥化相談会、PR活動</li> <li>5. ふるさとまつり・緑化まつりでダンボール箱を使った生ごみ堆肥化をPR</li> <li>6. 市民農園利用者へダンボール箱を使った生ごみ堆肥化をPR</li> <li>7. 実践者対象の情報交換会開催</li> <li>8. 実践者へダンボールコンポスト通信の発行</li> <li>9. 出来た堆肥と新基材の無料交換制度</li> </ol>
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ( )

相互提案型協働事業評価シート

事業名	生ごみの堆肥化推進事業「生ごみ資源化で循環型社会へ」
-----	----------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	所期の目的は、十分達成できましたか。	
	*講座参加人数 110人→79人(73組) 達成率72% *実践者数55人→48組 " 87% *生ごみ処理機等助成対象者へのアフターフォロー 依頼なし*無料交換希望なし	役割分担で定めた市に期待する役割について十分達成することが出来た。
事業成果・効果	事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。	
	講座後のアンケートより *ごみを減らすことが大切と認識した *簡単にできそう 「講座開催を何で知ったか」 *広報さま*農政課からの手紙 *まつり・市役所(相談会)で見た ★ダンボールボックスを知る市民が増加 ★通信発行・情報交換会開催などアフターフォローを行ったので継続者が増加 ★基材販売212セット、1セットで約50kgの生ごみを処理=10,600kg 可燃ごみ削減	講座を通して廃棄物行政に関わる市の現状や問題点、ごみ減量の必要性など市民の意識啓発、向上につながったものとする。

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことが出来ましたか。	
	生ごみの堆肥化推進、循環型社会への取り組みで、団体は「市民一人ひとり、家庭単位でできることから始める」ですすめてきた。 この目標を共有できたと思う。	家庭から排出される燃えるごみのうち大部分を占める生ごみについて、『少しでも減らさなければいけない、そのためには何が出来るのか』という共通の認識を持って事業を実施することが出来た。

事業の進行管理	進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。	
	自治会への回覧締切日の変更が団体に伝わらなかったため、回覧することができなかった。 その他はスケジュール通りにできた。	ほぼスケジュール通りに事業を実施することが出来た。
対 等 な 関 係	協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。	
	提案をした当団体が担当課に対し、一方的にお願いをする形になった。	団体が果たす役割と市に期待する役割をそれぞれが責任を持って事業を実施することが出来た。
相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	市民活動支援講座「市民活動のためのコミュニケーション力」を受けたので、多少理解ができたと思う。  それぞれの力を発揮できたと思う。	互いの立場を考え、相互理解を持って事業を実施することが出来た。

### 3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 講座開催</li> <li>② 生ごみ堆肥化に取り組む市民へのアフターフォロー</li> <li>③ 市民への生ごみ堆肥化啓発活動(相談・まつりや市民農園契約者へのPR・情報交換会の開催・通信の発行)</li> <li>④ 畑等での堆肥活用実践者と活用機会の少ない実践者との仲立</li> </ul>	<p>(市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 講座での、市の現状や今後の方向性の説明</li> <li>② 広報誌などによる事業の周知、PR</li> <li>③ 会場の確保支援</li> <li>④ 公共施設へのポスター・チラシの配布・設置</li> <li>⑤ 生ごみ資源化施策の一層の推進</li> <li>⑥ アンケートの実施</li> <li>⑦ 市民農園利用者へのPR</li> </ul>

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	役割分担は適正なものでしたか。	
	適正	⑤生ごみ資源化施策の一層の推進については市の本来業務としての施策であり、本協働事業を実施する上での市の役割とするには意味合いが異なると感じた。
実施結果	設定した役割分担を果すことができましたか。	
	④ができなかった。 タダで使ってもらってよいという提供者と貰う方の遠慮があった。	果すことが出来た。
協働による効果	それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。	
	*座間市のごみ事情を市職員が話すことで関心が高まった。 *信頼度が高いので講座後、材料の販売もスムーズに行えた。 *公共の場所でPRができ、講座参加、実践へとつながった。	講座や相談会など市が単独で行う以上のボリュームある事業を実施でき、成果を上げることが出来た。

#### 4 今後の具体的な展開

事業の波及効果	今後、実施事業をどの様な形で展開していくことが望ましいと思いますか。	
	<p>(団体の考え)</p> <p>★ダンボールポストや電動式生ごみ処理機などの処理物を使える場所の確保 協力を得られる農業者をさがし循環ファームを作る。</p> <p>その道筋</p> <p>① 自ら畑で野菜を育て、生ごみ堆肥の効果を農業者にアピールする。</p> <p>② 理解ある農業者と生ごみ堆肥を使った循環ファームを作る。</p> <p>③ 「生ごみ堆肥を使った野菜」をまつりなどで販売、店頭にも置いてもらう。</p> <p>④ 生ごみを堆肥にして循環させる市民を増やす。</p>	<p>(市の考え)</p> <p>【資源対策課】</p> <p>燃えるごみの大部分を占める生ごみの減量について、施設整備や大型生ごみ処理機の導入を行うことなく、各家庭や個人が少しでも考え、協力していただける施策を展開していきたい。</p> <p>具体的には生ごみ処理容器に対する補助事業の継続及び市民への広報・PRの拡充に努める。</p> <p>【農政課】</p> <p>循環ファームや店頭販売といった商業ベースに乗せる事業展開については、さまざまな規制やコスト面での検討等が必要とされます。当面は生ごみの減量といった本来の趣旨に沿った市民へのPR・認知を進めるに事に重点をおきたい。</p>